資料１

旧中島地区被爆遺構確認調査の実施状況

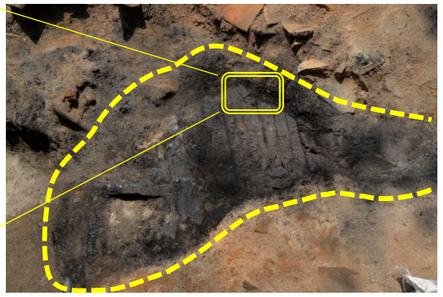
【確認調査の概要】

1	名　　称	旧中島地区被爆遺構確認調査
2	実施場所	名勝平和記念公園内（広島平和記念資料館東館北側の緑地帯の一部）
3	実施期間	①令和元年５月１６日（木）～７月１９日（金） ②令和元年８月２１日（水）～ ※平和記念式典会場の設営・撤去のため、同年７月２０日～８月２０日まで確認調査を中断。
4	掘削規模	①・②の全体面積 60 ㎡程度、深さ約 0.6m～約 0.9m

確認調査①における主な検出物

▲太いい草と細いわらのような繊維が観察できることから、炭化した畳の可能性が高い。細長い板材は、床板と考えられる。炭化した板材、角材等の全体的な状態から考えて、床板の上に畳を敷いた座敷の床が、そのまま焼け落ちて炭化したものと推測される。

炭化した畳、板材等　写真❶



▲縦方向に並ぶのは板材。その下には板材と直角に交わる角材が一本確認できる。焼土との境の黒いもやもやした部分は、い草とわらのようである。

確認調査②（拡張分）における主な検出物

側溝　写真❷

▲側溝は底部のモルタルとその両側を挟んだ２種類の石材で構成されている。側溝境に右側が住居、左側が天神町筋である。住居側の石材は厚く立派なものが使用されており、住居の玄関口を意識したものと考えられる。天神町筋側の石材は路肩を保護する役割があったと考えられる。

隣家との境界（石材列）　写真❸

▲石材の上に炭化材が乗っていることから、木造家屋の土壁の基礎となる石材列と考えられる。

【凡例】

- ：アスファルト
- ：側溝
- ：土間
- ：隣家との境界（石列、石材列）
- ：炭化材（炭化した畳、板材等）
- ：被爆遺構が壊れている箇所（廃棄土坑等）

※この図は、およその位置を示したものである。